宇都宮市のまちづくり情報紙

まちぴあ

身近なつながりに出会おう

No.30
2019.7
夏号

TAKE FREE
無料

UTSUNOMIYA MACHIPIA

特集

できることから始めよう！
スポーツボランティア。

ほっとねっと　Tochigi未来カフェ

まちぴあ通信　特定非営利活動法人 日本樹木育成研究会

地域の情報局　清原ドリームプロジェクト「Zuttoきよはら」

まちづくりリレーコラム　「未来人になって考える」

できることから始めよう! スポーツボランティア。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催まで1年ちょっと。世界中からトップアスリートはもとより多くの観光客が日本に訪れるということで、各方面でボランティアへの関心にも高まりを見せています。その中でも今回、スポーツボランティアの現場に足を運んでその取り組みを取材してきました。

参加賞のTシャツは宇都宮メディア・アーツ専門学校の黒澤由佳さんによるデザイン

プレイヤーとは違った楽しさ

チームで揃えたTシャツや思い思いのトレーニングウェアに身を包んだランナーが173チームで約1200人。この日、取材で訪れたのは「42・195㎞リレーマラソン大会」の会場である道の駅ろまんちっく村（宇都宮市篠井町）です。県外からの参加も多く、一人ではなかなか走り切れないフルマラソンの距離を、仲間とタスキをつないで走り切る。1周2キロの周遊コースを誰が何周走ろうと、どんな順番で走ろうと自由。新緑の美しい風景の中、たくさんの笑顔が溢れかえっていました。

今年7回目を迎えたこの大会運営を全面的にサポートしているのは、地元のNPO法人スポーツのまちづくり応援団（鈴木勲代表）です。これまでも県内のサイクルイベントやトライアスロンの大会など多くのスポーツイベントに協力してきました。

スポーツを通じて街を元気にするという理念のもと2009年より任意団体としてスタートし、2012年にはNPOの法人格も取得。

①スポーツを支えるスポーツボランティアのネットワークを作る②スポーツ大会、イベントへボランティアを派遣する③ボランティアが気持ちよく協力できるよう大会運営サイドと連携するという3つの基本方針のもと、このリレーマラソンも立ち上げ当初より運営に関わってきました。

今回のボランティア参加者は地元の会社員や主婦など約20人。主な役割としては、駐車場の案内や受付、コースの誘導、完走証の発行、表彰など、朝早くから会場の撤収が終わる夕方までほぼ一日がかりで、どれも大会を開催するには欠かせない大切な仕事ばかり。

法人の理事でこの大会でも当日運営を統括している深谷香さん（55）は、「本当にありがたいです」と感謝の気持ちを表すと共に、「とにかく一回でもいいからボランティアを経験して欲しい。プレイヤーとはまた違った楽しみをぜひ味わってもらいたいから」とボランティアの魅力にはまったひとり。

深谷さんは海外のトライアスロン大会に参加するなど自身も現役のアスリート。過去にさまざまな大会にエントリーし、大会独自の雰囲気やその印象を思い浮かべたときに、ボランティアの存在はとても大きい。そのようなところに目がいくようになったのも自身のボランティア体験が生かされているからだと話します。

支える楽しみを知ってほしい

代表の鈴木さんは、「スポーツファンには①やるスポーツファン②みるスポーツファン③支えるスポーツファンの3つがありますが、その中では圧倒的に支えるファンの数が少ない。真に豊かで健康的なまちづくりを進めるためにも、ボランティアの育成とネットワークづくりが欠かせない」と設立の経緯を振り返ってくれました。とはいえ、ボランティアを確保することは口で言うほど簡単ではありません。ではどんな方法で活動に取り組んできたのか、そのさまざまな工夫を事務局の深谷さんが教えてくれました。

まずそのひとつが、参加したボランティアさんを対象に毎回実施しているアンケート。その結果は必ず主催者側へフィードバックして、その反省点や感想などを求めようにしているそうです。ボランティアはイベントを支えるだけでなく、ともにイベント

最後はチーム一丸となってゴールテープを切る参加メンバーの皆さん

をつくる仲間だということを大切にしているその表れなのでしょう。

また、金額は多くなくとも、ボランティアの参加者には謝礼やお弁当などを支給するだけでなく、イベント参加者に配布するものと同じ参加賞やスタッフ専用のTシャツを用意してもらうよう主催者側へ要求しているそうです。

このように主催者側とボランティアを対等な立場として橋渡しすることで、より質の高い大会運営をサポートし、イベント参加者にも「来てよかった」と思ってもらえるようなおもてなしを提供することで、スポーツを通じた地域の魅力発信に貢献してきました。

この日、ボランティアに参加していた千葉宣宏さん（45）は、知人に誘われたことがきっかけで興味を持ち、家族みんなでボランティア登録をして、これまでもサイクルイベントなどにも参加してきたそうです。

「ボランティア同士の交流はもとより、イベント参加者ともコミュニケーションが取れるのが楽しくて続けています。みんなの笑顔を見ると、こちらも自然と笑顔になっちゃいますよね」とボランティアの魅力を楽しそうに話してくれました。

他にも、小学生のチアリーディングチームが給水ポイントで声援を送ってくれたり、タスキの中継ポイントではブラスバンドが生演奏でエールを送ってくれたりと専門分野を生かした協力も見られました。また、参加賞とスタッフのTシャツは、地元専門学校でデザインを学ぶ生徒さんが考案してくれたものだそうで、このようにスポーツイベントが開催される陰には本当に多くの支えがあるのだと実感した一日となりました。

スポーツボランティアというと、オリンピックやワールドカップのような大きなイベントを思い浮かべる人も多いかもしれませんが、そういった国際大会に限らず、今回訪れた市民マラソンのような地元に根差した大会にも多くのボランティアの存在があります。

東京オリンピックを契機にスポーツボランティアに注目が集まる今。このチャンスを一過性のものではなく宇都宮が真に豊かなスポーツの街となるようなネットワークづくりにつながるよう、市民パワーに期待しています。

（上）タスキリレーの中継点（右）親子3人でボランティアに参加した千葉さんファミリー（右下）完走証を手渡す（左下）無線で現場の情報をやり取りするボランティアスタッフ

生演奏でエールを送る宇都宮ブラスソサエティの皆さん

「がんばってくださーい」という可愛らしい声援と共に給水ドリンクを手渡す佐野フェアリーズの子どもたち

深谷　香 さん

Kaoru Fukaya profile

東京都生まれ。宇都宮スポーツの街づくり応援団理事。東京学芸大学卒業後、都内中学校国語科教員など経て出産後宇都宮に移住。35歳でランニングを開始し、42歳には初トライアスロンにも挑戦。46歳でトライアスロン「アイアンマン70.3」世界選手権に参加。今も現役のアスリートとして活躍する傍ら、スポーツボランティアの普及活動にも尽力。宇都宮市在住

V Bank ボランティアバンクに登録しませんか？

宇都宮スポーツの街づくり応援団（USMO）では、ボランティア登録のお願いをしています。ご登録いただいた方には、各種スポーツ大会、イベントのボランティア参加の情報を配信します。宇都宮をスポーツの力で、元気にしていきましょう。登録はホームページのメールフォームから簡単にできます。ボランティアバンクへの登録は無料です。

スポーツボランティアに参加しませんか？

2019年8月18日（日）
やいた八方ヶ原ヒルクライム
受付会場：栃木県矢板市本町5-4

2019年9月29日（日）
すまいる駅伝 in みずほの自然の森公園
受付会場：宇都宮市西刑部町1861

とちキッズCUP2019 年間5戦！
第3戦は9月中旬 ジャパンカップ大会
（詳細はホームページをご参照ください）

USMO
https://www.usmo.jp/
（特非）宇都宮スポーツの街づくり応援団　事務局
〒321-0973 栃木県宇都宮市岩曽町1482 じてんしゃの杜内
E-mail: info@usmo.jp　代表：鈴木 勲　設立：2010年

まちづくり活動仲間が目指すもの

ほっとねっと No.30

栃木の福祉の裾野を広げるコミュニティ

高齢社会の進展とともに、社会的課題としても重要度を増している「福祉」。今後の未来を見据えて持続可能な福祉の実現が求められています。多様な世代、さまざまな団体とコラボを重ね、福祉の裾野を広げる活動を行っている皆さんにお話しを伺いました。

「Tochigi未来カフェとは」

「Tochigi未来カフェ」は、福祉・介護・医療をキーワードに、2ヶ月に1回のペースで通常会を開催しています。毎回設定されたテーマに基づいてその分野の専門家を招き、さまざまな業種の市民が地域福祉をキーワードに意見を交わし学びを得ます。

介護、看護、医師に限らず、建築、行政、カウンセラーなど、毎回50名ほどの市民が集まり、自由に意見を出し合うワールドカフェ方式で進んでいきます。防災や薬、音楽など設定される毎回異なったテーマで、参加者が地域福祉を土台とした話題で盛り上がり、お互いに顔の見える関係なっていく過程をみると、福祉という分野が専門職だけが担うものではないことを実感させてくれます。

ワールドカフェ方式で行われる通常会

「裾野をひろげる大切さ」

介護、障害者、高齢者……、○○福祉と付く言葉には専門的なイメージが付きまといます。一方で「幸せ」を意味する言葉である福祉を充実していくには、衣食住全ての事柄が関連します。それこそ専門外の知識も必要となってくるそうです。そのために、真の多業種連携と福祉の裾野を広げるためのコミュニティが不可欠なのだと思います。

未来カフェでは、基盤活動の通常会を継続しながら、福祉と住環境、福祉とお寺をミックスした講話など、他業種が連携してこそできるテーマを取り上げた講演会も主催しています。誰でも参加でき、多くの方が関心をもてるような機会を作り、カフェに関わる人々がワクワクできるような交流の場づくりを通じ、福祉の裾野を広げています。

公開講演会の様子

「みんなで創る、まちづくり」

福祉の分野と同じく、広い意味で扱われるのが「まちづくり」という言葉です。共に担い手不足が心配される分野でありますが、専門家や行政任せにして良いものでしょうか。日々の生活と切り離せない福祉と、生活している地域を考えるまちづくりは、それぞれの立場にある市民一人ひとりが関わることが必要です。なぜならば、想いやニーズが人それぞれ違うからだと思います。想いを実現していくためには、誰もが関われるような環境を作っていく必要があり、お互いの長所や悩みが相談でき、解決していける力を培うことが大切になってきます。そうして生まれるつながりが、福祉やまちづくりといった地域を支える力になり、新しい担い手となっていくのでしょう。

5周年記念講演会での集合写真

Tochigi未来カフェ
代表：鈴木隆浩
URL: https://tochigi未来カフェ.com/
facebook:
https://www.facebook.com/tochigifuturescafe/

取材後記

今回の取材では、施設など特定の場所で行われているものが福祉の全てではなく、地域全体が関わっていく中に福祉という概念があるのだと改めて考えられました。地域福祉について考え、できることをしていくことはある種の未来への投資だと思いました。（小倉）

ちょっと気になるコレクション

安全・安心なJGAP認証トマト

「桃太郎トマト」は栃木県立宇都宮白楊高校の自慢で、県内のマスコミにもオリンピックトマトとして何度も取り上げられている有名トマト。野菜実習室やハウスには厳格な入室ルールを設け、「清潔第一」の環境を心がけて安心・安全な野菜づくりを徹底しています。

平成30年には悲願であった、JGAP（日本版農業生産工程管理基準）を取得し、「自分たちが作った農産物を世界のアスリートや訪日客にぜひ味わってほしい」と、東京オリンピック・パラリンピック選手村への食材提供を目標にしています。

地産地消の学びのために近隣の小・中学校の給食食材として届けたり、オリスクマーケットなど市内で開催される食のイベントに出品したりして、「甘くておいしい」と高い評価を得ています。

果皮が柔らかく流通が限られているため、希少価値のあるトマト。不定期ですが、まちぴあでも販売しています ので、運が良ければ入手できます

学生たちが愛情を注ぎ、プライドをもって育てている「桃太郎トマト」です

とっておきの関心空間

時間が蓄積した和み空間

宇都宮市西大寛に1952年建築のオーナー祖父母の家だった一軒家を、2014年にリノベーションしたシェアハウス「haus1952」。瓦屋根や観音扉の玄関などは残し、モダンなリビングやウッドテラスは落ち着ける空間となっています。

オーナーの佐藤さんが住み始めた2017年3月からはリビングにて月1回サイエンスバーを開催。元々東京でお仕事をされていた佐藤さんがギャラリーキッチンで行われていた科学バーの常連として参加、宇都宮でも開催したいと高校の先生や大学教授に来ていただき、男性・女性ホルモンや人体の構造と機能など身体の仕組みについてお話されてきました。

「学ぶだけではなく共に考える時間にしたい」と会話をしながら学びを深める時間が生まれていました。

シェアハウス「haus1952」

〒320-0866
栃木県宇都宮市西大寛 1-2-2
facebook:
https://www.facebook.com/haus1952/

食事をしながら身体について学ぶ

MACHI DUKURI TOPICS

「まちづくりって何？」そんなアナタにディープな地元ネタから、今が旬のレア情報まで、まちぴあから“まちパワー”を発信します!!

うつのみや発の話題人（ワダイビト）

がんをもっと社会の人に知ってほしい

がん患者を相手にした傾聴ボランティアをしている丹生さん。一緒に活動している加藤玲子さんから昨年、「またがんが見つかっちゃったの」と打ち明けられたそうです。

30年以上もの歳月をがんと共に生きる加藤さんの人生に感銘を受けて、「これまでの闘病記録を本にしてみては?」と声をかけたところ快く了承してもらい、有志にて闘病記出版実行委員会を立ち上げました。

クラウドファンディングで寄附を募り、口座への振り込みのほか現金での協力などもあり、多くの関心を集めて今年4月に出版。

「この本はどこで買えますか」といった声も多く、反響の大きさを感じているという丹生さん。今後もがんについての啓発活動を継続していきたいと話します。

丹生　英昭さん

浅草生まれ／宇都宮市在住／終章コミュニティーワーカー、傾聴ボランティア、民生委員／好きな食べ物：チョコレート、おにぎり／趣味：愛犬と遊ぶ／モットー：加藤さんを通してがんを知ってもらいたい。がん患者さんに励みを与えたい

本の購入希望の方は実行委員長の丹生さんまで（090-4012-4966）

まちぴあ通信
まちぴあ登録団体紹介

森づくり活動や体験イベントに参加して見ませんか！

森林は地球環境を救う！

近年、台風による大雨など自然災害が多発するなど環境問題が大きくクローズアップされています。そのような中、健全な森づくりを通して地域の課題解決に取り組んでいるのが日本樹木育成研究会の方々です。

森は水源を豊かにし、土砂災害を抑え、人の心を癒してくれるなど、人が生きる環境を守るためにさまざまな役割を果たしてくれています。地域の森を適切に管理して、「人々の暮らしを守るためにも今すぐ行動を起こさなくては」と危機感を覚えた森づくりの専門家が、仲間に声をかけて2006年に団体設立。できるだけ多くの人々に、森づくりの正しい知識と技能を身につけてもらおうと、宇都宮大学名誉教授の谷本丈員長に迎え「森林管理士資格養成講座」を開設。

この講座は国の人材認定等事業にも登録され、これまで12年間で23都道県にわたる約230人の資格者（林業・造園・公務員・会社員など）が誕生しています。

栃木県がもっとも多く約90人のメンバーがいることから活動も盛んで、積極的にボランティア活動にも取り組んでいます。日光の二社一寺をはじめとする危険木調査や、東日本大震災の際には復興支援として宮城県石巻市雄勝町葉山神社境内周辺の伐採除去や植樹にも協力しました。

このようにネットワークを生かして、森林状況の調査研究など活動の幅を広げている森林管理士の皆さんですが、今後さらに、有資格者を対象とした「森林管理士会ステップアップ研修」を年3回実施するなど、あくなき森づくりへの挑戦にアクセルを踏み出します。

団体名 特定非営利活動法人 **日本樹木育成研究会**

- 代表　青山 金典　会員数20名
- 定例会　毎月、第2土曜日（予定）　2Fまちぴあオフィス
- 活動場所　「細谷の森」「篠井の森」など
- ホームページ　NPO法人日本樹木育成研究会

地域の情報局

今回は「清原地区」

清原ドリームプロジェクト「Zuttoきよはら」

農業の未来を語り合う交流会「農夢会」で意気投合した、清原を愛する者たちで発足したプロジェクト。メンバーは、農家やレストラン、福祉施設と多彩。農資源を生かした農福連携やインバウンド受け入れなどユニバーサルな事業展開をしています。特に力を入れているのが、清原の豊かさを知って、訪れてもらうための商品開発とグリーン・ツーリズムの推進。うつのみやアグリネットワークで開発した「きよはらピクルス」は好評で、地元企業とコラボしたサラダめんも今春に販売が開始。また活動初期より続けている「採りたてツアー」は収穫体験や畑の中でのティータイムなど、オンリーワンのおもてなしで交流を深める試行をしています。

今年度から、清原地区こども食堂キャラバンへの協力をしています。ゆくゆくは農泊体験等も実施できたらと夢は膨らみます。この故郷を愛し、大切にし、そしてこの大地の恵みを多くの人にずっと届けていきます。

まちづくりリレーコラム vol.1

「未来人になって考える」

本誌「まちぴあ」の創刊号から続いた人気コラム「陣内先生のまちづくり言いたい放題」が惜しまれつつも前号で終了となりました。陣内先生、そしてご愛読下さった読者の皆様、本当にありがとうございました。今回から装いを新たに、毎回異なる担当者が執筆する（陣内先生の後は一人じゃ荷が重い……？）「まちづくりリレーコラム」となりますので引き続きお付き合いをお願い致します。

さて、言いたい放題の最終回が「まちづくりを自分事に」を願って締めくくられましたので、そのバトンを受けての今号です。早速ですが、38・34という数字、何か思い当たりませんか。そう、4月21日に投開票が行われた宇都宮市議選の投票率です。今回初めて30%台に落ち込んでしまいました。争点がはっきりしない、候補者がよくわからない、誰がやっても同じ……いろいろな理由で投票所に足を運ばなかった有権者が6割強いたことになります。「まちづくりを自分事に」がいかに難しいかを示す数字とも言えます。

自分に関係がある、と感じるためには何かきっかけが必要です。その機会として私が今、興味をもっているのが「フューチャーデザイン（FD）」です。聞き慣れないかもしれませんね、私がこの言葉を知ったのも実は今年になってからです。

FDは、現在の意思決定が将来世代に大きな影響を及ぼす問題について、実際には存在しない「将来世代」を現代社会に作って未来からの視点で議論しよう、という考え方です。

もともとはイロコイ・インディアンが、重要な意思決定をする際に七世代後の人々になりきって考える、という発想から始まっているそうですが、いくつかの自治体では市民が参加するワークショップ等で実験的に取り入れられています。たとえば岩手県矢巾町では、町の総合計画を策定するにあたり、無作為で選ばれた20数人が現世代と将来世代に分かれて議論をしました。また長野県松本市では、交通計画を考える際に「2060年の市民になって意見を述べる」というイベントを実施したそうです。

10年、20年という近未来ではなく、40年後あるいはもっと将来を設定しているところが、現世とのしがらみがなく、自由に発想できるコツでしょうか。そもそもその発想が正しいかどうか誰にもわかりませんし。未来人になるスイッチが、まちづくりを自分事にするきっかけになるかもしれません。

私の場合、2060年にはちょうど100歳となります。人生100年時代と言われる今日、その最後の年に自分がどんな生活をしているのかを想像するのも一興かなと思っています。

書籍紹介
まちづくりを考えるこの一冊！

西條辰義　編著
「フューチャーデザイン
七世代先を見据えた社会　」
勁草書房　2015年4月25日発行

安藤（あんどう）　正知（まさとも）プロフィール

2005年に市民主体のまちづくりを目指すNPO法人宇都宮まちづくり市民工房の立ち上げに参加、現在当法人の理事及び法人が指定管理する宇都宮市まちづくりセンターのセンター長。デスクワークが多い今日この頃、たまに畑で汗を流すのが良い気晴らしです。

このコーナーでは市民のみなさん、市民活動関係者、行政関係者などからのご意見、ご感想をお待ちしています。紙面上での意見交換へと発展することを期待します。ご意見・ご感想はまちぴあ広報部へ。

まちぴあ書庫から PICK UP!

美徳へのこだわりを捨てるとみんなが楽になる
息苦しい人間関係に悩む組織への処方箋

強すぎる「絆」意識で、なんとかできるうちの「助けてくれ」を言いにくくさせ、結果として援助も抑制させてしまうグループ。一方、適度な距離感の仲間でやせ我慢せず悩みをさらけ出せて、誰かが妙案を授けてくれるかもしれないグループ。そんな2つのグループを並べると、どちらが「生き心地」が良いか、想像がつくと思います。

全国でも極めて自殺希少な地域である徳島県旧海部町。この町で現地調査を行い、海外でもあまり例がない『自殺を予防する要素』を研究した著者が知見をまとめた一冊です。

町内問題だけでなく、会社やサークル、PTAなどの組織全般にとっても、「人がすぐ辞める」「人間関係の悩みが多い」というところは、こちらの本は参考になるのではないでしょうか。調査や統計・解析手法も詳しく載っており、信用性が高い内容です。サロン機能を多く持つコミュニティの事例としても面白く読むことができます。

『生き心地の良い町
この自殺率の低さには理由（わけ）がある』
岡檀　著
講談社
2013年7月発行

まちぴあからのお知らせ

助成金情報　宇都宮発の市民活動を応援しています

令和元年度 市民活動助成金交付団体の活動紹介

市では、市民や企業の皆さんからの寄付金の他に、寄付金と同額を市からも支出して積み立てる「市民活動助成基金」を設置し、さまざまな分野で活躍する市民活動団体に助成金を交付しています。今年度の助成先が決定しましたので、今後の活動にご注目ください。

お問い合せ　みんなでまちづくり課　TEL.028-632-2886

スタート支援コース

立ち上げて間もない団体などに、事業の開始など団体の自立化を支援するコース

団体名	活動内容
「とっておきの音楽祭 in うつのみや」実行委員会	音楽を通し障がいのある人とない人が共存する社会の実現のため、音楽祭を開催
NPO法人 ERICCO BOOK PROJECT	LGBTへの理解促進のため、セミナーや親子で参加できるワークショップの開催
Edu Lab 栃木	子育ての悩みの相談場所や、心のケアを必要とする保護者に対して講演会や勉強会を実施

ステップアップ支援コース

結成後２年以上経過した団体に、事業の拡大など活動の活発化を支援するコース

団体名	活動内容
ママの働き方応援隊　栃木校	赤ちゃん先生プロジェクトの実施による社会活性化、母親を繋げる場づくり
特定非営利活動法人 うりずん	共生社会への理解を深めるための重症障がい児の写真＆作品展を開催
認定NPO法人 とちぎボランティアネットワーク	フードバンク事業の実施と、新たな拠点の設立
釜川から育む会	釜川を拠点とした環境体験型イベント、ワークショップの開催
絆演芸ショー	福祉施設での、歌や踊り、マジックを織り交ぜた慰問公演の実施
特定非営利活動法人 障がい者福祉推進ネットちえのわ	障がい児者本人及び関係者へ向けた学習会や懇談会の開催、障がい児者のための余暇活動の実施
ともしびプロジェクト宇都宮支部	被災した方の経験談を聴く場の創出、キャンドルイベントの開催
うつのみやジュニアジャズオーケストラ	ニューオーリンズオールスターズの招聘と、ジャズオーケストラ演奏会の開催
みらい・ともに・すすむ	障がいのある方もない方も楽しむことができる、映画上映会の開催

市民活動助成基金 ご協力ありがとうございます

- 川嶋和子　● 沼子典司　（敬称略）
- 関東インフォメーションマイクロ 株式会社
- 合名会社 竹田商店
- 協和測量設計 株式会社
- 株式会社 景観プランニング
- Mテクノ 株式会社
- 株式会社 本澤建築設計事務所
- 宇都宮屋台横丁（株式会社 村上）
- 株式会社 興建
- 藤井建設 株式会社

市民活動助成基金とは

宇都宮市では、ボランティア活動やNPO活動を活発にし、全市的に広げていくため、これらの活動を市民、企業、行政のみんなで支える仕組みとして「市民活動助成基金」を設置しています。

この基金は、市民の皆さんによる「市民活動を応援する気持ち」である寄附金を積み立てるとともに、宇都宮市が寄附金と同額を支出して、積み立てています。

ボランティア団体やNPO法人の活躍により、宇都宮を活気ある、すてきな街とするため、市民の皆さんのご協力をお願いいたします。

宇都宮市役所
みんなでまちづくり課　市民活動グループ
TEL.028-632-2886
URL: http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/
※トップページ▶（分野別で探す）市民協働・コミュニティ▶ボランティア・NPO

まちぴあ最新情報にアクセス！　http://www.u-machipia.org　まちぴあ　検索

まちぴあ新規登録団体（2019年4月30日現在　登録団体数199団体）

サンクスポーツクラブ陽東
子どもから高齢者まで誰もが、いつでも、どこでも気軽にスポーツ活動に参加できる環境を整備し、異世代間交流をはじめ会員相互の親睦を図る

ハッピースマイル
マジックなどをはじめとした創作活動を通じ、会員相互の親睦を図り、日頃の成果を地域の高齢者、子どもたちと楽しむ機会を作る

（特非）COCONET北関東支部
カラーセラピー手法による心のストレスの軽減と、色彩を取り入れた生活の普及に関する事業を行い、穏やかな家庭と豊かな感受性を育む

栃木県シルバー大学校中央校同窓会第38期会
会員の健康づくりと会員相互の親睦・交流を深め、心豊かな地域社会づくりを目指す

となりのグランマ
子育て世代を応援し、地域での育児支援の重要性を啓発し、保育によって生きがいを見出し、女性の地位向上と明るい社会づくりに寄与する

宇都宮市まちづくりセンター　まちぴあ
（指定管理者：認定NPO法人　宇都宮まちづくり市民工房）
〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉５丁目9-7
TEL.028-661-2778／028-661-2779
FAX.028-689-2731
E-mail: info@u-machipia.org　URL: http://www.u-machipia.org

開館時間　午前９時から午後９時30分まで（日祝は午後５時まで）
休 館 日　年末年始（12月29日～翌年1月3日）
臨時休館（施設点検等）
JR宇都宮駅東口から徒歩15分　駐車場28台

まちぴあ情報紙の音訳版もございます。ご希望の方はまちぴあまでご連絡ください。

2019年7月1日発行　編集・発行　認定NPO法人　宇都宮まちづくり市民工房
宇都宮市のまちづくり情報紙「まちぴあ」